

1 学校教育目標 確かな学力、豊かな心、健やかな体 (知・徳・体のバランスのとれた力をはぐくむ)	2 本年度の重点目標 (1) きめ細やかな指導による児童一人一人の学力の更なる向上 ○新学習指導要領の理解と理念に基づいた指導法改善 ○知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成 ○読書の奨励 (2) 人権・同和教育の推進 ○いじめの未然防止と多様性を尊重する教育 ○「特別の教科 道徳」の充実と連携 (3) 地域と連携した市民性を育む教育活動の充実 ○地域人材の活用、及び地域を学ぶ教育活動の推進 ○地域行事への参加や地域への貢献活動の推進 (4) 働きやすい職場環境づくり ○アサーションと同僚性を大事にした職員集団づくり ○教育内容における質の維持・向上と業務改善の両立
---	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① きめ細やかな指導による児童一人一人の学力の更なる向上						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○教職員の資質の向上	学びたくなる授業づくり	・児童へのアンケート調査「自分から進んで授業にのぞみましたが。」の割合を、4段階評価で3.0以上に ・職員へのアンケート調査「子どもたちが学びたくなる授業づくりに努めていますか。」の割合を、4段階評価で3.4以上に	・研究授業等で、児童が学びたくなる授業について研究するとともに、少人数のよさを生かした個に応じた声かけやきめ細やかな指導を工夫する。 ・日々の授業において、児童が分かる授業や意欲的に取り組む授業を目指し、電子黒板を有効に活用する。 ・「授業づくりのステップ1, 2, 3」を活用して、日々の授業改善に努める。	管理	野中石井
教育活動	●学力の向上	個に応じた指導の徹底 読書活動の充実	・国語科及び算数科の基礎・基本の定着を図る。その上で、県調査の4教科の正答率を、少なくとも「おおむね達成」以上に ・1～3年実施のCRTIにおいて、全国平均以上に ・マイライブラリーカードを全員が作成し、各自が設定した目標を達成する。	・個に応じた机間指導の時間を設定する。 ・基礎・基本の定着を目指した家庭学習の習慣づけを図る。 ・児童が、自分の考えや思いを表現できるように、考える視点を与え全教科の授業で考えを伝え合うような取り組みを行う。 ・年に2回、読書推奨週間を設ける。マイライブラリーの達成度や読書冊数などを適宜、把握し、個別指導をする。	教務	石井武田
	○家庭との連携	家庭における学習習慣の定着	・児童へのアンケート調査「毎日、家で勉強していますか。」の割合を、4段階評価で3.8以上に ・保護者へのアンケート調査「お子さんが宿題や読書の習慣がつくように努めていますか。」の割合を、4段階評価で3.0以上に	・各学年の目標時間を意識させ、家庭学習の取組に対する評価及び指導を継続して行う。 ・学級懇談会や学級通信などで、目標時間や具体的な内容について説明し、協力をお願いする。 ・県教委作成の『家庭学習の手引き』を活用して、家庭訪問時に習慣化に向けての協力を依頼する。 ・学校からのお便り(図書だより等)で読書の大切さを伝えていく。	低学年	竹崎
② 人権・同和教育の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	全教育活動における道徳教育、人権・同和教育、特別支援教育の実践	・なかよし人権教室は、支援教員が担当する3回は全校対象だが、それ以外は下学年・高学年に分かれ、年8回実施する。また、その内容と関連させた道徳の授業を毎回実施する。 ・部落問題学習を全学年で、部落史学習を6年で行うことができるよう計画を立て、確実に実践する。 ・定期的に実施する『こころのアンケート』において、自分ががんばっていることやできるようになったことを記述する欄を設け、肯定的な記述ができる児童の割合を90%以上に	・「いのち」「なかま」「共生」の視点で、全職員が分担して、なかよし人権教室を企画・実施する。 ・部落問題等を自己の問題として捉えさせるような教材の開発や指導の改善を図る。道徳の教科書で、人権学習として適しているものをチェックする。 ・肯定的な記述が十分にできなかった子どもについては、アンケート実施後に必ず声かけを行い、その子どものがんばりを認め、褒め、励ますようにする。	人権・同和教育(道徳教育)	井上田口
	●いじめの問題への対応	いじめを許さない学級づくり	・児童へのアンケート調査「学校は楽しいですか」「学級・学校に友だちがいますか」「悲しんだり悩んだりしている友だちがいたら、声をかけましたか」の項目は、4段階で3.7以上に	・児童理解研修、『こころのアンケート』、Q-Uの結果を活用して、児童の心の状態をこまめに把握し、その情報を職員間で共有するとともに、必要に応じて適時・適切に対応をする。 ・Q-Uの結果分析は、講師招聘をして分析を行い、指導に活かす。	人権・同和教育	井上
③ 地域と連携した市民性を育む教育活動の充実						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○市民性を育む教育	地域人材の活用 地域を学ぶ学習の充実 地域行事への参加	・1, 2年… さつまいも作り 3年… そば作り 4年… 豆腐作り 5年… もち米作り 6年… 租税教室等 ・各学年とも、年に1回程度は、授業や学校行事に地域の人材を活用するようにし、教育効果を高める。 ・職員へのアンケート調査「地域行事への参加やボランティアを子どもたちに呼びかけましたか」の割合を、4段階評価で4.0にする。	・人材リストを年度毎に作成(更新)し、見直しをもって計画的に地域人材を活用できるようにする。 ・地域行事への参加を呼びかけたり、地域のためにできることを考えさせたりして、町民の一員である自覚を促す指導を行う。	中高学年部	武田浦田
学校運営	○開かれた学校づくり	学校情報の発信	・年間50号を目安に「学校だより」を発行し、学校の教育活動や児童の学習の様子などを家庭や地域に発信する。 ・学校HPの更新回数を増やすとともに、学校HP閲覧を「学校だより」等で保護者等に呼びかけるなどして、各記事の閲覧回数が前年度を上回るようにする。	・日常的に学校の教育活動の情報収集に努めるとともに、学校行事の様子なども適時に「学校だより」で発信できるようにする。 ・学校HPのイベントギャラリーに週に3回程度は記事を投稿する。	管理	校長
④ 働きやすい職場環境づくり						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務効率化の推進 多忙感解消	・各担当業務の情報共有を強化する。職員へのアンケート調査「共有フォルダを利用し、データの共有化に努めた」の割合を、4段階評価で3.5以上に ・毎週金曜日を定時退勤日に設定し、徹底を図る。職員へのアンケート調査「管理職は、職員が定時に退勤できるよう働きかけを行ったか」の割合を、4段階評価で3.8以上に	・校務用サーバに共有フォルダを作成し、データの共有化を行い、教材作成や学級事務等の効率的な業務遂行に努める。 ・管理職が、業務の進捗状況を適時尋ねるなど積極的な声かけを行い、金曜日における定時退勤を確実に実施できるようにする。	管理	校長野中
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	体力の向上	・教育活動全般を通じて、運動・スポーツを好み、めあてを持って体力向上に取り組む児童を育てる。 ・児童へのアンケート調査「持久走やなわとびをして、体力がついたと思いますか」の割合を、4段階評価で3.6以上に	・新体力テストの結果を受けて、体力向上に向けためあてを立てる。 ・健康タイムや業間の持久走タイム、大なわとびの練習に全校で取り組む。	健康	今井
		基本的な生活習慣の定着(歯と口の健康)	・自分の健康の保持・増進のために、自らの問題として考え、行動し習慣化するようにする。 ・児童へのアンケート調査「朝や夜(夕方)など、家での歯みがきがきちんとできていますか」の割合を、4段階評価で3.8以上に ・う歯保有率の減少及び歯と口の健康意識を向上させ、歯科受診の割合を90%以上に	・毎学期、基本的な生活習慣の定着についてのアンケートを実施し、保護者と連携しながら個に応じた指導を行う。 ・歯に関する指導を各学級で行い、歯に対する意識を高めさせる。また、受診勧告を含め保護者への呼び掛けを保健だより等で定期的に行う。	健康	牧山
	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・児童へのアンケート調査「夢や目標、めあてに向かってがんばる気持ちがある」の割合を、4段階評価で3.5以上に ・児童へのアンケート調査「佐賀県や唐津市が好きですか」の割合を、4段階評価で3.5以上にし、且つ、好きな理由が言える割合を80%以上に	・道徳科や特別活動の時間において、夢や目標について考えさせる時間や機会を設定する。 ・「私たちの佐賀県」や唐津市発行の郷土学習資料を基にした授業を年間指導計画に位置付け、社会科における地域学習を充実させる。	教務	石井竹崎田口